

交通に関する各種取組について

企画政策課

1 安田・成美(一部)地区での実証実験結果について

詳細は添付する資料により説明

2 琴浦自分ごと化会議提案書の提出について

- (1) 日時 令和3年2月25日(木) 9時00分～10時00分
- (2) 場所 琴浦町役場委員会室
- (3) 内容 琴浦自分ごと化会議委員より町長に対して提案書を手交
- (4) 琴浦自分ごと化会議 ～町民と考える持続可能な地域交通～
 - ・委員 町民18名で構成
(内訳)無作為抽出で1,000人に案内し、応募した者 12名
中山間地域の住民代表 4名
聖郷小・船上小PTA代表 2名
 - ・会議 10/25、11/21、12/13、2/6
 - ・議題 町営バス、スクールバス、タクシーの地域交通の現状と課題を提示し、暮らし続けることができるまちづくりのために地域に必要な交通について議論
町営バスやスクールバスの効率的な運行、小中学校への通学の確保、タクシーの役割、共助交通の推進について協議を行った。
 - ・その他 第1回から第4回までの会議資料・結果報告は、ホームページに掲載



会議の様子

3 ラッピングバス完成披露会について

- (1) 日時 令和3年3月21日(日) 10時00分～11時00分
- (2) 場所 琴浦町役場本庁舎ロビー及び駐車場
- (3) 参加者 町長、副町長、教育長、関係課
(予定) デザインをしてくれた小学生
博報堂デザイナー(オンライン)
協賛企業
- (4) 内容 「惑星コトウラ」「小学生イラスト」「協賛企業トビウオ」のラッピングが施されたスクールバス4台、町営バス1台が完成するので、披露する。

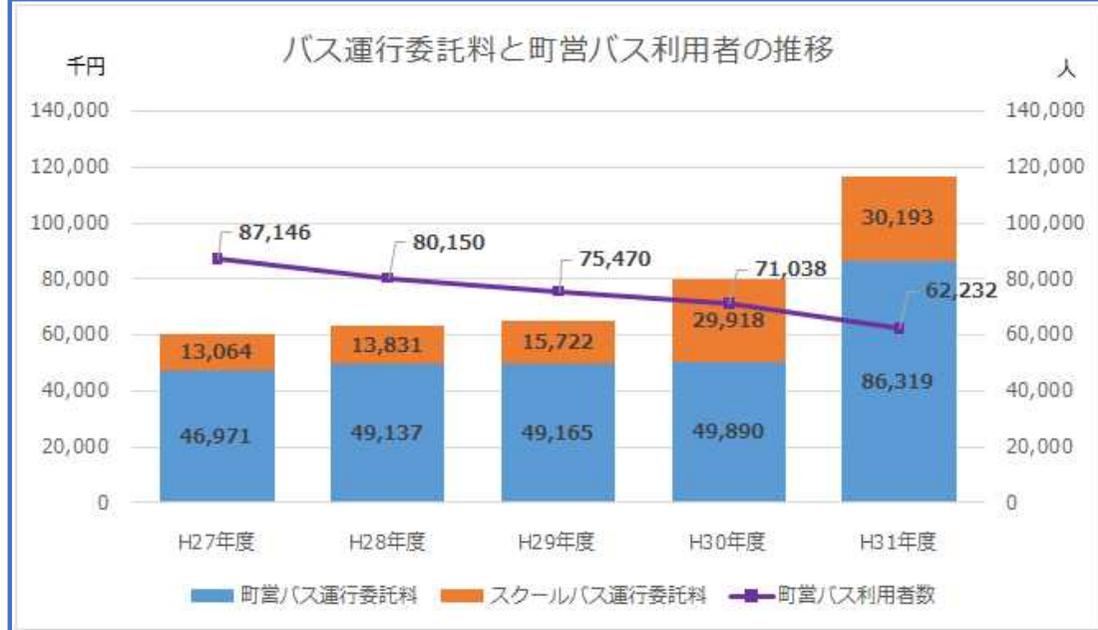
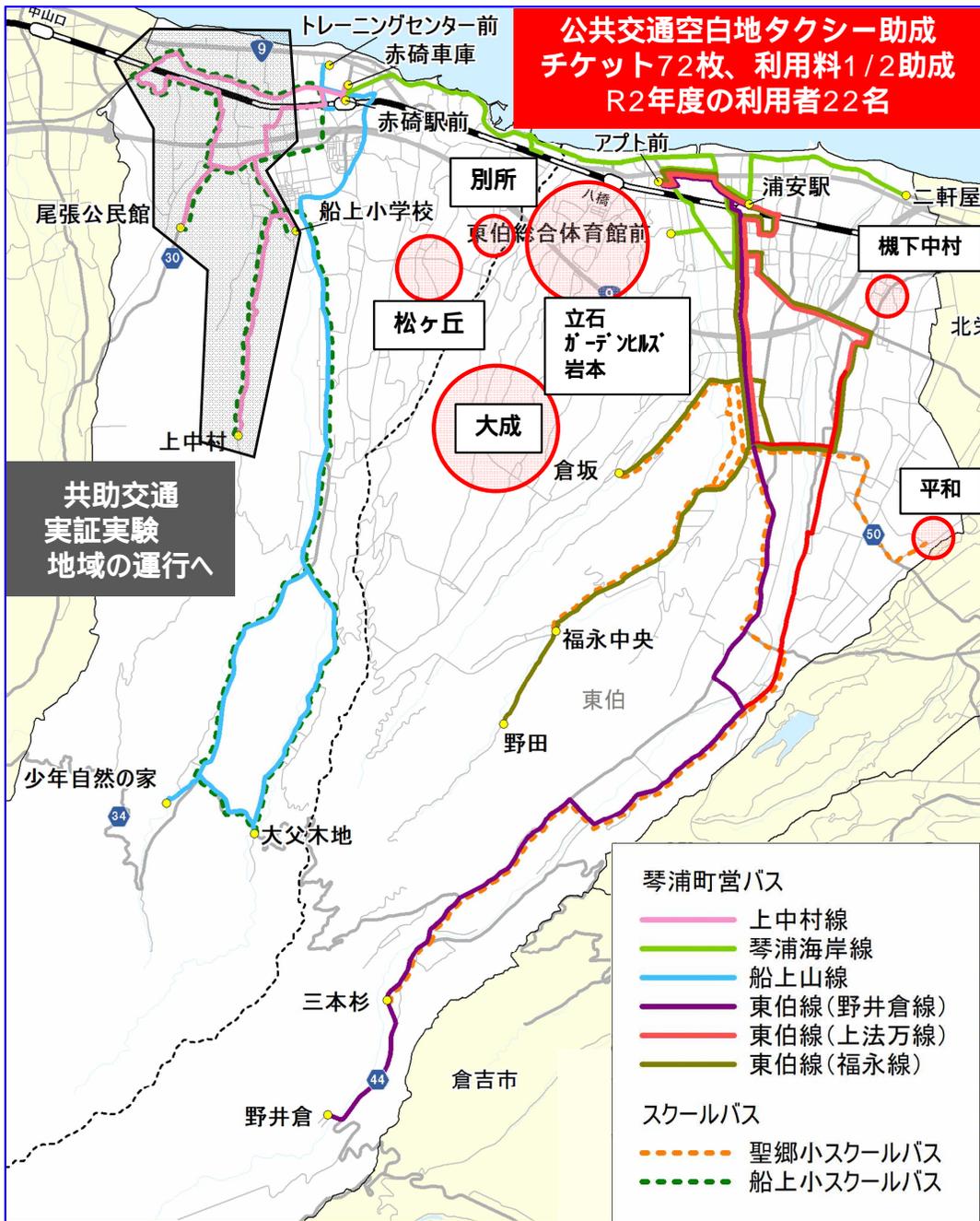


琴浦町における共助交通の推進 ～ 支え合いによる持続可能な地域交通～



企画政策課
令和3年2月

琴浦町の地域交通の現状と課題



地域交通が抱える課題

- 運転手の不足 (なり手不足)
- 利用者の減少と経費の増加 (日中は少ない)
- 高齢者の移動ニーズの変化 (玄関前送迎)

持続可能な地域交通

人口減少、少子高齢化、社会構造の変化
 様々な地域課題を町で対応することが困難

- バスの効率的な運行 (スクールバス混乗、便数・ルートの見直し)
- 収支の改善 (経費削減、収入アップ)
- 共助交通の推進 (高齢者の移動を支える)

共助交通の必要性

公共交通	交通事業者や地方公共団体が運行、利用者は限定しない (JR、路線バス、タクシー、町営バス)
共助交通	NPOや自治会などが運行、利用者を限定する (地域内のボランティア輸送、有償コミュニティバス)

高齢者の移動ニーズの変化

- 運転免許保有率が増加し、自家用車を運転 バス、タクシーに乗らない
- 一方で免許返納者の増加（高齢者の事故、体力面での問題） 移動手段の必要性
- バス停までの移動が困難 玄関先での送迎ができるタクシー型の交通を希望
- バスに乗らない、乗れない人が増加 事業収益の悪化、減便や廃止
- タクシーは、ドライバー不足や赤字営業による規模縮小 予約待ちの発生

負のスパイラル



不便な交通 利用者の減少 経費の増加

これまでと同様の交通施策は継続困難
公共交通だけでは移動のカバーに限界

地域の住民が必要とする移動を地域で支える仕組みが必要

住民同士のつながりを軸に地域の課題を主体的に解決していく

住み慣れた場所でいつまでも暮らしていける地域づくり

地域における共助交通の広がり

安田・成美地区 共助交通実証実験



実施主体 町、中央大学 **【助け合い交通ことうら】**
運行期間 11/2～12/25の2カ月間(毎日)
利用時間 9時～16時
運転手 住民ボランティア 10名(半日交替)
利用者 安田・成美地区(一部)の住民
運賃 無料(実験のため)
利用方法 電話またはスマホアプリで予約
運行形態 玄関前まで送迎
運行車両 ワゴンR 1台(レンタカー)
その他 予約・配車、安全管理は田中商店が実施

徳万たすけあい トクトク会



実施主体 徳万たすけあいトクトク会
運行期間 9月～継続中
運行回数 週に2回程度 主にアプトに送迎
運転手 住民ボランティア 3名
利用者 トクトク会会員 20名程度
運賃 無料(ガソリン代の実費のみ)
利用方法 電話でドライバーに予約
運行形態 玄関前まで送迎
運行車両 ドライバーの所有車を利用
その他 買い物等の付添い支援費を受け取る予定

古布庄地区 振興協議会無料送迎



実施主体 古布庄地区振興協議会
運行期間 11月～1月の3カ月間(カフェ・百歳体操の実施日)
利用時間 みなくるの開閉時間にあわせて運行
運転手 住民ボランティア 1名
利用者 古布庄地区の住民
運賃 無料(実験のため)
利用方法 電話で振興協議会に予約
運行形態 カフェ、百歳体操参加者を玄関前まで送迎
運行車両 ワゴンR1台(レンタカー)
その他 古布庄地区全体への拡大を計画

琴浦自分ごと化会議 からの提言(案)

1. 琴浦町民の移動のニーズ(実情)の把握を行い、日常生活に必要な交通手段の確保が困難な町民を支える。
2. 「町民の生活を支えるためには、どのような移動手段を確保する必要があるのか」の視点から、今後の公共交通のあり方を再検討する。
3. **将来にわたって移動手段を確保できるよう、地域と行政が連携し、町内の各エリアに合った共助交通を検討する。**
4. 暮らしを助け合える元気な地域をみんなで作っていく。

共助交通実証実験の概要（助け合い交通ことうら）



<h3>人口</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・1,342人 ・75歳以上320人 ・割合23.8% 	<h3>公共交通</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・町営バス上中村線(前日予約) 1日上り4便、下り5便 一部スクールバス混乗 ・タクシー 	<h3>課題</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・前日予約のため利便性が低い ・利用が少なく、1便あたりの平均利用者が1.0人以下
---	---	--

R1年度実績 町営バス上中無線の平均利用者数

路線名	上り					1日あたり平均利用者数		下り					1日あたり平均利用者数	
	便数	時間	発	時間	着	平日	休日	便数	時間	発	時間	着	平日	休日
上中村線		7:10	上中村	7:53	船上小学校	0.9	0.5		9:25	船上小学校	10:02	上中村	0.2	0.1
		10:03	上中村	10:40	船上小学校	0.2	0.2		13:30	船上小学校	14:07	上中村	0.1	0.1
		14:08	上中村	14:45	船上小学校	0.2	0.1		15:30	船上小学校	16:07	上中村	0.1	0.1
		17:08	上中村	17:45	船上小学校	0.0	0.0		16:30	船上小学校	17:07	上中村	0.1	0.0
									17:46	船上小学校	18:23	上中村	0.6	0.5

予約から利用の流れ



共助交通実証実験の結果

- 上中村線の11月～12月の2カ月間について、9～16時の町営バス運行を住民ドライバーによる送迎に代替
- 利用者は2か月間で**計22名**（関係者を含めると28名）
- 2カ月で**延べ157人**、1日当たり**平均2.9人**の利用

- 日中の便について、**1日当たり0.8人**の利用であったが、実証運行では**1日当たり2.9人と増加**した。
- コロナ禍以前であるR1年度（H31年度）と比較しても、R2年度の4～10月までは前年度の半減など減少する中、実験を行った11、12月は、**前年度の同月比で4.5倍**となっている。
- 利用が増えた要因は、**運賃無料、玄関前での送迎、事前予約不要**であり、便利な交通であった。

分類	意見内容
利用者の声	<ul style="list-style-type: none"> 共助交通について利用者の4割が絶対に必要と回答。6割の方が今後も利用したいと回答。 <u>お金を払ってでも、ぜひ運行してほしい。</u>
住民ドライバーの声	<ul style="list-style-type: none"> 多様な交通手段があってしかるべき 多様なニーズへの対応が必要（MaaSの考え方） 自分たちも免許返納した場合には、このシステムが必要 毎日運行しなくても、月水金など、曜日限定でもよい ボランティア形式ではなく、午前、午後、それぞれ1,000円くらいの報酬がある方が継続性がある

ドライバーが少しでも報酬を受け取ることができる
 利用する高齢者が支払いやすい料金
 玄関前送迎による便利で効率的な運行
 ドライバーの負担にならない範囲での運行

共助交通の仕組みづくりを支援

実証実験事業補助金（上限185万円）
 運営事業補助金（上限200万円）



ことうら「食」の魅力発信プロジェクト事業の進捗について

企画政策課

1 前回報告以降の進捗について

(1) 天然生活2月号発売

令和2年12月19日(土)、天然生活発売。あわせて天然生活Webを配信。

(2) ESSE 町内取材の中止について

令和3年1月9日(土)～10日(日)に、4月号制作のため2度目の町内取材の予定だったが、緊急事態宣言の発出のため中止となった。代替策として、現地を訪問しない形での制作に方針転換。方法については以下のとおり。

【代替策】

- ・現地のカットよりも、料理をメインに押し出した紙面にする
- ・町内事業者・生産者へのインタビューは、アンケート方式とし、必要に応じて別途電話などで聞き取り
- ・掲載写真については、賛否両論での料理撮影時(1月25日)に撮影したほか、前回別雑誌で撮影した素材写真や役場で用意可能な写真を提供し使用

取材中止により、ESSEonlineの更新もスケジュールを変更。1月配信を止め、その分を3月に2本配信

(3) ESSEonline(第5回)の配信

令和3年2月16日(火)配信。

4月号掲載の「あごちくわアボカドづめ天ぷら」をピックアップし、掲載



ESSEonline
はこちら



(4) インフォーマーシャルCMの制作

令和3年2月17日(水)、オンラインにてCM制作に立ち会い。東京の制作スタジオでは深谷参与が同席し、指示出し等を行った。

〔放映時期〕3月の毎週月曜日 関東ローカル

〔放送局〕フジテレビ系列「ノンストップ!」

笠原氏の料理コーナー内にて30秒間放映

2 直近のスケジュール

3月	2日	ESSE 4月号発売	夏レシピ掲載
	9日	ESSEonline(第6回)配信	
	31日	ESSEonline(第7回)配信	
	毎週月曜	CM放映 計5回予定 (フジテレビ系列「ノンストップ!」内)	関東のみ
4月	12日	撮影@賛否両論	
	18日	町内ロケ	
6月	2日	ESSE 7月号発売	夏レシピ掲載

熱中小学校第5期生徒募集について

企画政策課

1 オープンスクールの報告について

- (1) 日時 令和3年2月20日(土) 13時00分～
- (2) 講師 1時限目(社会) 増田寛也 氏 日本郵政(株)取締役兼代表執行社長
地方創生を考えてみよう
- 2時限目(生活) 開沼 博 氏 立命館大学准教授
災害の前に知っておきたい10のこと

2 第5期生徒募集について

チラシ添付

- (1) 日付 4/24、5/22、6/26、7/24、8/28、9/25の月1回(土曜日)
- (2) 時間 13時00分～16時00分
- (3) 会場 まなびタウンとうはく4階多目的ホール
役場分庁舎2階多目的ホール
新型コロナウイルス感染予防のため、旧以西小学校から変更
- (4) 授業料 個人 10,000円/6カ月 スポット受講2,000円/回
法人 30,000円/6カ月
- (5) 講師(予定)

大江 英樹 氏 おおえ ひでき	経済コラムニスト 1952年大阪市生まれ。大手証券会社を定年退職後に起業。「資産運用」「リタイアメントライフ」「年金」「行動経済学」等をテーマとして経済誌への執筆や全国で講演活動を行っている。
岡 秀昭 氏 おか ひであき	阿波踊り情熱普及人 1941年徳島市生まれ。18歳で娯茶平に入連、7代目連長を経て、2008年徳島県阿波踊り協会副会長に就任。2014年天皇陛下傘寿のお祝いでお祝いで皇居において阿波踊りのソロ踊りを披露。
中村 健 氏 なかむら けん	早稲田大学マニフェスト研究所事務局長 1971年徳島県池田町(現在の三好市)生まれ。JR四国社員を経て、1999年、27歳で同県川島町長に初当選。全国最年少の首長となる。町長を2期務めた後、早稲田大学大学院公共経営研究科に入学。現在は一般社団法人地域経営推進センター代表理事等
坂本 昭文 氏 さかもと あきふみ	「いくらの郷」所長 1949年南部町生まれ。1995年県内最年少町長として初当選。合併後の南部町長を含め計6期21年半にわたり町政をリードした。退任後はニート・ひきこもり青年の社会復帰を手助けする「いくらの郷」の所長等

北村 貴 氏 きたむら たか	食と地域のマーケッター 1967年十勝浦幌町生まれ。1997年日本で2番目となるITマーケティング会社を起業。北海道にUターンし、(株)グロッシーを創業。全国の料理家350人や生産者と食が創り出す豊かな生活を提案。
内田 克彦 氏 うちだ かつひこ	地域研究家 1954年鳥取市生まれ。大阪市立大学法学部卒。鳥取県職員として観光、広報、企業誘致、地域振興などを担当。退職後は鳥取県国際交流財団に勤務。「鳥取県を舞台に！歴史大河ドラマを推進する会」共同代表
花堂 純次 氏 はなどう じゅんじ	映画監督 1955年九州宮崎生まれ、日大芸術学部卒。フジテレビ系列のドラマ「愛の嵐」で監督デビュー、「失樂園」など多数。「永遠の仔」でギャラクシー賞。地方からの映画文化を育てたい。
神戸 貴子 氏 かんべ たかこ	ナーシングコアコーポレーション合同会社代表 福岡出身。自らの子育てや介護の経験から、介護を家族だけで抱え込む難しさを実感。親孝行代行業「わたしの看護婦さん」を創業。東京都知事賞、男女共同参画大臣賞、全国商工会議所女性会優秀賞を受賞
苅谷 夏子 氏 かりや なつこ	大村はま記念国語教育の会事務局長 1956年東京生まれ 東京大学国文科卒。中学時代、単元学習で知られる国語教師・大村はまのもとでことばの力を鍛えられる。現在、大村はま記念国語教育の会事務局長として大村の実践を継承する活動をリード。
小泉 凡 氏 こいずみ ぼん	小泉八雲記念館館長 1961年東京生まれ。成城大学・大学院で民俗学を専攻。妖怪、怪談を文化資源として観光・文化創造に活かす実践研究を展開。鳥根県立大学短期大学部名誉教授。小泉八雲曾孫。
稲見 昌彦 氏 いなみ まさひこ	東京大学先端科学技術研究センター教授 電気通信大学、慶應義塾大学等を経て現職。自在化技術、人間拡張工学、エンターテインメント工学に興味を持つ。博士(工学)。JST ERATO 稲見自在化身体プロジェクト研究総括。超人スポーツ協会代表理事。
小前 孝夫 氏 こまえ たかお	大山乳業農業協同組合代表理事組合長 1957年琴浦町生まれ。2017年5代目組合長に就任。就任後は、良質生乳生産に向けた白バラ認証制度の導入や白バラブランドのさらなる強化に取り組む。現在は毎朝牛舎にも通いながら組合長を務める。
平井 伸治 氏 ひらい しんじ	鳥取県知事 1961生まれ。東京大学法学部卒業後に自治省(現総務省)入省。2007年初当選。現在4期目。全国知事会社会保障常任委員会委員長、国新型コロナウイルス感染症対策有識者会議メンバーなど、要職多数。座右の銘は「人は城、人は石垣、人は堀」。著書に『小さくても勝てる』がある。

琴浦町大学生等生活応援交付金の実績について

企画政策課

1 趣旨

新型コロナウイルスの影響を受けている琴浦町出身の学生応援事業第2弾として実施しました。大学生等に交付金を支給し、精神的、経済的負担を緩和することにより、安心して学業に専念できるように応援しました。

2 実施概要

- (1) 交付対象者 次のア～カの全てを満たす者
 - ア 申請時点又は高校卒業時点で琴浦町に住民登録している者
 - イ 平成3年4月2日～平成14年4月1日の間に生まれた者
 - ウ 令和2年7月1日時点で文部科学省の定める次の高等教育機関に在籍する者【高等学校専攻科、高等専門学校(4年生以上)、専修学校(専門課程)、短大、4年制大学、大学院、省庁大学校 等】
 - エ 町の運営するメーリングリストへの登録に同意する者
 - オ 世帯全員の町税等の滞納がないこと。
 - カ 本人及び扶養者が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律に定める暴力団員でない、暴力団の利益につながる活動を行うおそれがないこと。
- (2) 支給額 町内在住者5万円 町外在住者10万円
- (3) 申請方法 学生又は保護者が申請書等を郵送・持参

3 支給実績

町内在住(5万円)60人 町外在住(10万円)296人 合計356人、3,260万円

	9/10	9/25	10/12	10/26	11/10	11/25	12/10	12/25	1/12	1/25	合計
町内在住	7人	12人	6人	11人	7人	7人	1人	1人	1人	7人	60人
町外在住	25人	88人	42人	47人	31人	17人	13人	13人	10人	10人	296人
交付額	285万円	940万円	450万円	525万円	345万円	205万円	135万円	135万円	105万円	135万円	3,260万円

4 アンケート

本事業で作成したメーリングリストを活用し、大学生等応援事業第1弾「ことうらメール便」及び第2弾「生活応援交付金」交付者を対象にアンケートを実施しました。(令和2年12月17日～令和3年1月7日)

対象者数：384人 回答者数：122人 (回答率：31.8%)

回答概要：地元学生を含む中国地方在住者が多かった。続いて近畿地方が多い。

- ・メール便、生活応援交付金とも利用者の約98%が満足している。
- ・今後希望する支援として、支援物資や給付金の再交付、帰省時のPCR検査支援、地元の就職活動支援やオンライン就活等の意見が多かった。

琴浦町出身大学生等アンケート(第1回)報告書

1 調査の目的

この調査は、ことうらエール便と大学生応援交付金を利用した県内外の大学生に対し、事業の満足度と新型コロナウイルスの影響による困りごと等を町が的確に把握し、今後の支援事業を創出するための基礎資料を得ることを目的とした。

2 調査の期間

令和2年12月17日(木)～令和3年1月7日(木)

3 調査の方法

ことうらエール便、大学生応援交付金を利用した県内外の大学生についてメーリングリストを作成し、Google フォームにてアンケートを実施した。

4 回収結果

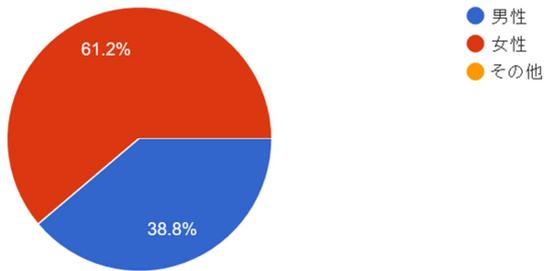
メール発信数・・・384人

回答数・・・・・・・・122人

回答率・・・・・・・・31.8%

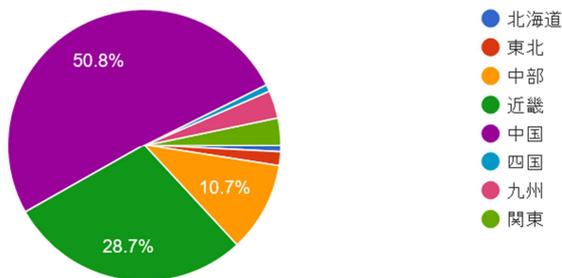
5 結果

(1) 性別



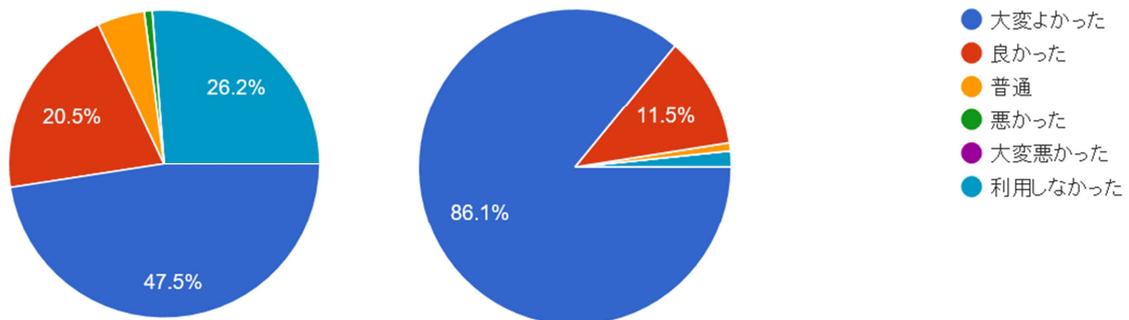
LGBT(性的少数者)配慮の観点で「その他」項目を設置した。
回答率については女性の割合が高い。

(2) お住まいの地域



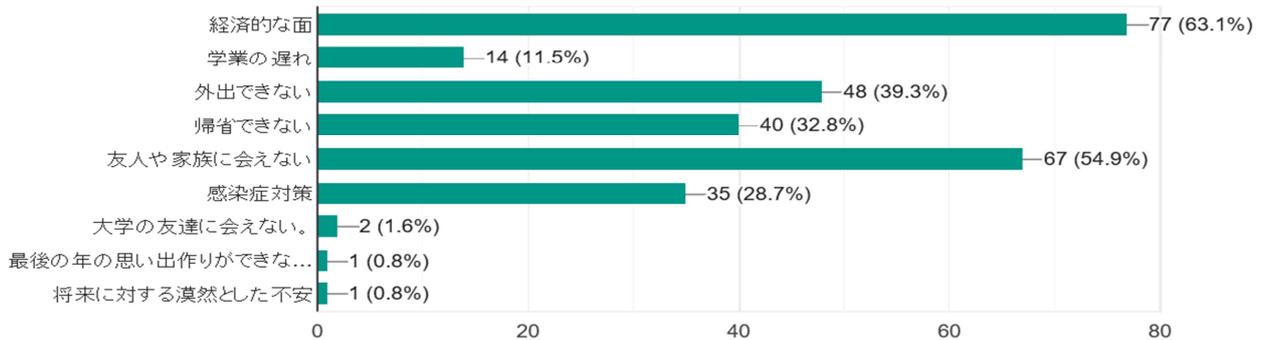
中国地方の学生が約半数を占めている。
高校卒業後、近畿地方(主に関西圏)へ転出する人が多い傾向にある。

(3) 満足度



ことうらエール便を利用しなかった学生は26.2%。自宅在住の学生は対象外であったため。いずれの事業も比較的満足度が高いことがわかる。生活応援交付金の満足度が高いのは、現金の支給で受給者が使途を決定できるためと考えられる。

(4) 生活・学業の面で困っていること

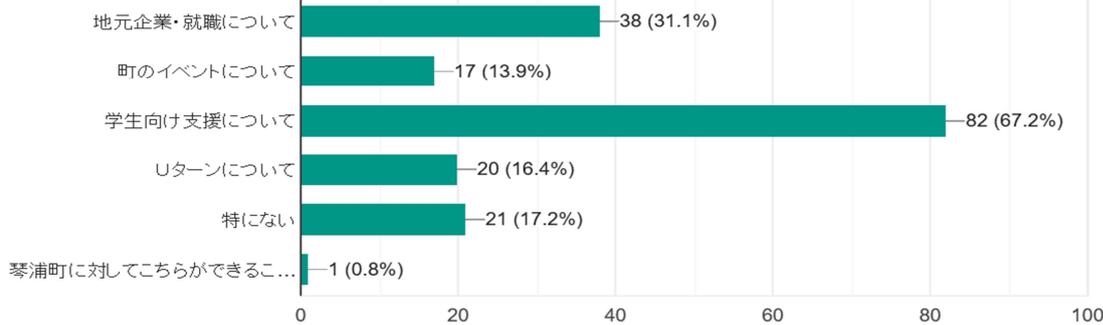


アルバイトができなくなり収入が減り、経済的な不安が多いことが分かる。
調査時が年末年始だったため、帰省できず家族や友人に会えないため不安になっている学生も多い。
精神的な面での支援も必要。⇒エール便の際には地元同級生による応援動画を作成し、同封している。

(5) 今後期待するコロナウイルス関連支援

- ・ 給付金の再交付
- ・ エール便のような物資を送るサービス
- ・ 帰省旅費の支援
- ・ 帰省の際の PCR 検査無料 など

(6) どのような情報が町から欲しいか



新型コロナウイルスの影響で卒業後、地元に戻ることを検討している学生もいるかもしれないので
学生が求めている情報は迅速に提供したい。

(7) その他 自由記載 ※回答原文まま

- ・ 再度、厳しい局面となってきておりますが、帰れるまで頑張りたいと思います。
- ・ 琴浦町の手厚い支援に助けられています。ありがとうございます。
- ・ なかなか帰省できないので、ことうらエール便のように地元のものが送られてくると、安心した。バイト先もお客様が少なくなってシフトも入ることが減ったので支援金は助かった。
- ・ ふるさと便また利用したいです。
- ・ 給付金のご支援、とても助かりました。ありがとうございました。
- ・ ことうら大学生交付金をもらいましたが、バイトも決まらず継続的な支援があれば嬉しいです。
- ・ 交付金は非常に助かりました。いつも学生への支援をいただきありがとうございます。卒業したら琴浦町に恩返ししたいです。
- ・ 10万円の支援金は何かしらの期限があった方がいい。お金に困っていない学生からすれば、貯金してしまうと思います。
- ・ 様々な支援ありがとうございました。ただ、もう少し早い対策があればもっと助かりました。コロナによって変わることが前提ですので、どのように変化していくのか予想しましょう。
- ・ 情報を親伝いに聞いたので、学生個人に情報が伝わりづらい面があったのかなと思った。
- ・ 成人式はしたいです。
- ・ 成人式の有無をはっきりして欲しい。今の状況で本当に開催するべきなのか、安易に中止という決断ではなく延期という方向で議論して欲しいです。